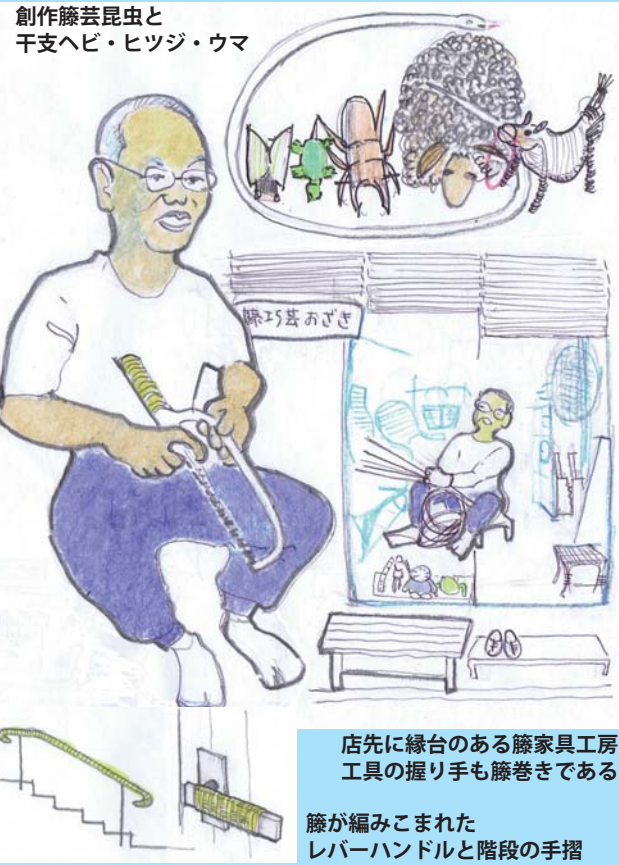


街路に開いた藤家具工房

新シリーズ～まちの中の達人～

池袋本町中央通りにある藤工芸おぎきを訪ねた。尾崎氏はこの地に昭和11年(1936年) 開業した



創作藤芸昆虫と
干支ヘビ・ヒツジ・ウマ

店先に縁台のある藤家具工房
工具の握り手も籐巻きである

籐が編みこまれた
レバーハンドルと階段の手摺

藤工芸職人の二代目である。藤工芸を通しての銭湯の盛衰、東南アジアの製品の流入、伝統工芸の継承などお聞きした。

銭湯の脱衣籠、赤ちゃんの着替台など、藤家具と銭湯とが切っても切れない関係にあった時代に筆者は育った。坪庭のある濡縁前に藤製の着替台がずらっと並ぶ。母親から湯上がりの赤ちゃんを受け取り、タルカムパウダーをはたいて、柔らかな腕を肌着に通す、そんな店の手伝いを思い出す。かつて菖蒲湯や柚子湯などの時に一日30個の籠を二人の職人で作り続けていたそうだが、防犯対策上、籠はロッカーに替わり姿を消しつつあり、今の需要は、棚に収まりやすい長方形の脱衣籠や、子ども椅子やペット籠が多いのだそうだ。尾崎氏は籐を編むという技術を請われて建築にも展開している。階段の手すりや、レバーハンドルなど、籐による融通無碍な曲線やさわやかな手触り感を編み納めている。籐を使っの創作にも余念がなく、籐という素材で干支が生まれ変わり、お孫さんのための昆虫となっている。

そんな尾崎氏の仕事を縁台越しに街路からのぞくことができる。そこには籐の様々な製品が重なっている。店頭販売もしている。この日籐の枕を買い求める人がいた。(文・イラスト:井出幸子)



池袋本町

まちづくりニュース

Ikebukuro Honcho
Machizukuri News
No.61

2016年9月発行

発行：池袋本町新しいまちづくりの会
http://池袋本町.net
豊島区都市整備部地域まちづくり課
問い合わせ先：
tel 03-3981-1464
fax 03-3980-5135
編集協力：防災アンド都市づくり計画室

新しい風景の誕生

池袋本町地区校舎併設型小中連携校開校



工事が行われてきた小中連携校が6月に竣工し、9月10日に落成式を迎えました。

この連携校は、池袋本町小学校と池袋中学校がそれぞれの独立性は保ちつつも、さまざまな施設を共用しながら、連携・協働して9年間の学びの連続性を確保できる、豊島区で初の校舎併設型小中連携校です。

校舎の北側の道に面して昇降口が続く校門があります。ここは敷地内に歩道状の空地をとり、広々とした空間になりました。植えられているのは桜の並木。そこにガラス張りの開放的な建物が建ち、一見、学校とは思えない外観となっています。これまでとは全く違う学校が誕生したことが一目でわかります。池袋本町に新しい風景が誕生しました。

新しいまちづくり会からの要望を受けて、防災にも様々な配慮がなされており、新しい地域の救援センター校として役立つことが期待されます。

池袋本町にタヌキ?

みなさんは池袋本町でタヌキを見たことがありますか。最近、タヌキの目撃情報が寄せられています。タヌキを見たというのは新しく建設された小中連携校の付近。夜の闇に紛れて歩いていたそうです。

雑司が谷でタヌキやハクビシンが出るという話は聞いたことがあります。雑司が谷は墓地やお寺が多く緑も豊かですから、出てもおかしくはないと思っていました。それに比べて緑が多いとは言えない池袋本町に本当にタヌキがいるのでしょうか。確かに連携校のあたりは本町公園があり、2000㎡の区有地もあります。しかし、タヌキが住みやすい環境とは思えません。

思いつくことはあります。最近、街を歩いていると、人が住んでいるのかわからない住宅が目につきます。豊島区が平成24年に池袋本町二丁目・三丁目を対象に行った空き家調査によると、一戸建ての空き家は60軒あるということです。一丁目と四

丁目にも同じようにたくさんの空き家があると思われれます。

タヌキは空き家の縁の下に住み着くことが多いそうです。とすれば、空き家が増えているということは、タヌキにとっては住みやすい環境が増えているのかもしれませんが。空き家の庭は藪のようになっていくところが多く、その意味では緑豊かな環境と言えなくもありません。

はたして池袋本町に住みついたタヌキは1匹なのか、はたまた家族連れなのか。もともと池袋本町にいたのか、どこからか流れて来たのか?疑問は尽きません。そう言えばタヌキは川や鉄道の側溝に沿って移動するという話もあります。鉄道が通る池袋本町は、やっぱりタヌキには住みやすい?

ともあれ、思いがけないタヌキの出現によって、街の現状が見えてくるような気がします。諸手を上げて喜ぶわけにも行かないかもしれませんが、池袋本町の新しい(?)住人として暖かく見守っていききたいものです。



つれづれに一言

池袋えびすの郷 吉田裕一



私は在宅のケアマネージャーとして、家で介護等サービスを受けながら生活を続ける相談やお手伝いをする仕事をしております。

最近ではネットワーク環境が便利になり事務所でもくても仕事が可能になりました。(携帯電話で連絡、iPadで書類作成等)

そこで7月から定期的に介護老人保健施設えびすの郷の玄関の前にテーブルとイスを出して、「世間話から介護相談までお話し伺います」とノボリ旗を立てて外で仕事をしています。

意図としては、世間話や介護の相談を通して地域での困っている事や需要を知れば私も何かできるかな?と思っただけです。

実際に行ってみると、「えびすの郷って誰か紹介がないと利用できないの?」等どこかで聞いた事を憶測で理解されてしまっていると感じました。

私自身も憶測で理解している事が沢山あります。それを、正確な情報にする簡単な手段は人との対話だと思えます。

最近、ちよつとした道端で井戸端会議をする方々を昔よりみかけにくくなった気がします。対話の機会が減っているように感じます。道幅が狭くて交通の邪魔になるからですかね。

えびすの郷では喫茶コーナーがあり誰でも出入りできて、お話しできるスペースがあります。(コーヒー1杯150円 正午〜午後3時くらい 水曜休み)是非、ご活用下さい。私を見かけたら気軽に声をかけ下さいね。